

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-24836

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月29日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 3/033

識別記号

3 4 0

F I

G 0 6 F 3/033

3 4 0 C

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平9-211153

(22) 出願日 平成9年(1997) 6月30日

(71) 出願人 597111291

森田 一三

愛知県名古屋市千種区今池 1-18-6

(72) 発明者 森田 一三

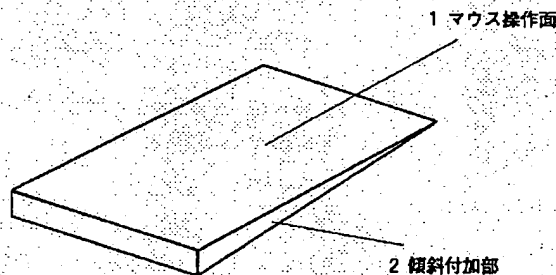
愛知県名古屋市千種区今池 1-18-6

(54) 【発明の名称】 傾斜付マウスパッド

(57) 【要約】

【課題】 水平面上におけるマウスの使用は必要以上に手首および腕の親指側へのひねりを必要とし、手首および腕へ負担をかけるものと思われ、これを解決することを目的とする。

【解決手段】 マウスパッドに固定、可変式の傾斜付加を行いマウス操作面が傾斜するようにし、手首および腕の親指側へのひねりを軽減する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 傾斜をつけたマウスパッド

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明はマウスパッドに傾斜をつけたものである。

【0002】

【従来の技術】従来、マウスパッドは机など、置く場所に対して平行になる形状をしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】水平面上でマウスを操作しようとすると、手のひらを水平にするため手首および腕を親指側にひねった状態を維持しなくてはならない。この状態でマウスのボタン操作を繰り返すと腕部筋肉の疲労を招きやすいと考えられる。本発明は、マウス操作時の手首および腕にかかる負担を軽減しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、適度な傾斜をつけた、または傾斜をつけることのできる板状の構造をしている。

【0005】

【発明の実施の形態】

(イ) あらかじめ適度な傾斜をつけたもの(図1)。

(ロ) 傾斜角を調節可能なもの(図2)。

以上の方法が考えられ、角度の付加および調節方法についてはマウス操作時の力に耐えうるものならどのような方法をとってもかまわない。

【0006】

【実施例】本発明そのものをマウスパッドとして用いることが可能である。本発明の上に従来のマウスパッドをのせ傾斜を与えて用いることが可能である。また、形態は四角でなく円形、楕円形、動物やキャラクタの形状など、マウスの操作に支障が無ければよい。また、斜面も一方向だけでなく複数方向に付加することも可能である。

【0007】

【発明の効果】本発明は以上の構造であり、単体のみでなく、OAディスク、事務机、コンピュータの操作卓、デスクマットなどにあらかじめマウス操作用の傾斜面を付加したり、傾斜面が付加可能な形態および機能を付加することも考えられる。

【図面の簡単な説明】

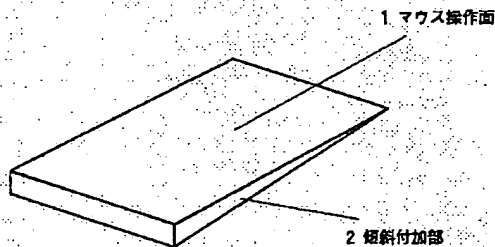
【図1】本発明の斜視図である。

【図2】本発明の他の実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 マウス操作面 2 傾斜付加部
3 可変式傾斜付加機構

【図1】



【図2】

